

シニアネットワーク東北

平成27年度活動報告書

平成28年6月9日

## 平成 27 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事代行 工藤昭雄

「平成 27 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 5 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」と言う本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（10 月）、山形大学（11 月）、仙台高専（12 月）、宮城学院女子大学（12 月）、福島高専（12 月）、東北大学（平成 28 年 1 月）、八戸工業大学（2 月）、東北学院大学（2 月）の 9 校で実施することができた。前年度実施できなかった宮城学院女子大学と東北学院大学についても熱心に働きかけた成果で再開できた。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、対話の中でマスコミの脱原発の論調に対して原子力発電は必要であるとの認識は持ってくれたようだ。この点に関してはここ数年変わっていない。

また、昨年度から始めた主に女性社員を対象にした「放射線と放射能」に関する勉強会も一部継続し、我々シニアとの対話を行い風評被害を避けるため放射線に関する正しい知識の普及に努めた。

ここにこれらの活動の概要を纏めて報告します。

## シニアネットワーク東北 平成27年度活動報告

### 1. 第7回定期総会

日時 平成27年6月4日(木) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成26年度の活動報告、会計報告が承認され、平成27年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。
- ・代表幹事および幹事ならびに監事について原案に加え阿部勝憲氏の幹事選出について提案があり承認された。

記念講演 (第19回勉強会参照)

### 2. 対話活動

#### (1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成27年5月28日(木) 10:00~17:20

場所 仙台市 花京院1丁目 TKP カンファレンスセンター 4A

参加者 SNW東北:4名、SNW連絡会:4名、新入社員:25名と対話。

基調講演 SNW連絡会幹事 元三菱重工業取締役 針山日出夫氏

「日本が抱えるエネルギー問題と日本社会を考える」と題して、東電福島原発事故がもたらしたものの、原子力の受容性、科学のリスクと便益、エネルギー問題の論点と選択等について講演した。

対話 基調講演の後、4グループに分かれて新入社員と対話し、対話後受講生が1分間スピーチを行った。

#### (2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催(5回目)

日時 平成27年6月17日(水) 13:00~16:30

場所 長岡技術科学大学 原子力システム安全棟

参加者 長岡技術科学大学 大塚雄市准教授

長岡技術科学大学大学院生 45名

SNW東北:5名 SNW連絡会:6名

基調講演 「将来のエネルギーを担う原子力」

(講師:SNW東北 矢野歳和副代表幹事)

今回で5回目となる対話会が開催され学生45名、シニア11名が参加した。30分の基調講演の後、参加者全員が6グループに分かれ、約3時間にわたり予め

設定されたグループごとの対話テーマに焦点を当てた対話を実施した。学生たちは与えられたテーマについて事前に情報を収集の上、問題点の整理や質問事項を準備して対話に臨んだ。対話後に全員が集合して、グループごとの発表と質疑応答が活発に行われた。この対話は同学におけるリスクコミュニケーションの実践課程の一環として実施されている。

(3) 青森大学 (6回目)

日時 平成27年11月11日(水) 14:45~17:30

場所 青森大学 633教室

参加者 学生：ソフトウェア情報学部、経営学部3~4年生20名

教授：ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

SNW東北 6名

基調講演1 矢野歳和副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線と放射能」

SNW東北の青森大学における対話集会は6回目である。

最初に教室で「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各30分の基調講演が行われた。その後、各学生5~7名とSNW東北2名との3グループに分かれて約1時間グループ対話を行った。

対話の後、再び教室に集まり、各グループ代表者から対話内容の説明があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。最後に、SNW東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(4) 山形大学 SNW連絡会と共催 (5回目)

日時 平成27年12月7日(月) 13:00~17:00

場所 山形大学工学部(米沢市城南4-3-16)

100周年記念館セミナー室

参加者 大学側 大学院理工学研究科 東山禎夫教授、杉本俊之准教授

学生 電気・電子工学専攻 3年生37名、4年生1名

シニア SNW東北:7名、SNW連絡会:6名

基調講演

講師 坪谷隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「高レベル廃棄物の処理処分」

山形大学工学部でSNWとの対話会を行うのは昨年に続き2回目で、電気電子工学3年生の「電力工学」を受講した学生に対して授業の一環として行っている。

基調講演の後6班に分かれ、各班数名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

(5) 仙台高等専門学校 (6回目)

日時 平成27年12月10日(木) 13:35~16:30

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟2F教室他

参加者 仙台高専 吉野教授 専攻科学生:3名、事務局、聴講:4名  
SNW東北:4名

基調講演1. 矢野歳和副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2. 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線の基礎」

各30分間の基調講演2件の後、「ベーターちゃん、サーベイメータ」を使用し、キャンパス内の任意の場所で計測実習が行い、計測地点により線量率が異なることを実感できた。

(6) 福島高等専門学校 (初回)

日時 平成27年12月12日(土) 13:45~17:30

場所 福島高専本館第4ゼミ室(いわき市平上荒川字長尾30)

参加者 教員:鈴木和雄准教授、他に佐藤正知教授、實川資朗教授、大山博史教授(広島高専)が一部参加

学生:計9名(産業技術システム工学専攻1年1名、機械工学科5年5名、建築環境工学科1名、機械工学科4年2名)

一般社会人:1名

シニア:SNW東北 3名、SNW連絡会 5名

基調講演 講師 若杉和彦 SNW連絡会幹事

演題 「日本のエネルギー問題と原子力の役割」

基調講演のあと、2グループに分かれて対話した。

今回は福島高専で初めての対話会であり、開催が土曜日であったこと、また当日同校で文科省の廃止措置研究・人材育成事業のキックオフミーティングが開催された経緯もあり、参加学生の数が少なかった。

しかし、世話役の鈴木先生から来年も開催して欲しいとの話があり、一定の

成果が上がったと考えられる。参加した学生は皆さん熱心で、卒業後地元で原発の廃炉事業に就きたいと希望している学生も多かった。

(7) 宮城学院女子大学 ミニ講義 (5回目)

日時 平成27年12月15日(火) 14:10~15:30(80分)

場所 宮城学院女子大学学芸学部 生活文化デザイン学科  
第2家政館 L101 実験室

参加者 本間教授+3年生8名(当初は3年生13名+4年生数名の予定であった)  
SNW東北 4名

「再生可能エネルギーと原子力」ミニ講義 矢野 30分 14:10~14:40

事前の質問が8件あった。ミニ講義のパワーポイントの中に取り入れる形で、ミニ講義全体の中の一部として記入し説明した。

ミニ講義のあと、東北エネルギー懇談会から借用したガンマ線用シンチレーション計測器1台およびベータ線計測器「ベータちゃん」4台を使って放射線計測の実習を行い、自然放射能の理解を深めてもらった。

(8) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (10回目)

日時 平成28年1月22日(金) 13:00~17:45

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学科

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 M1, B4 計28名

教官 石井教授、長谷川教授、遊佐准教授

シニア SNW東北:5名、SNW連絡会:5名

オブザーバ 日本原子力産業協会(JAIF) 村井

今回で10回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。

今回も昨年同様基調講演なしで、事前質問を受けた上で、対話に約3時間割り当てた。テーブルを4つに分け、シニアは下記テーマおよび共通テーマ(学生に求められる能力とは何か)を担当した。

テーブル1 (原子力の将来)

テーブル2 (原子力の社会的受容性について)

テーブル3 (原子炉廃止措置と廃棄物の処理・処分)

テーブル4 (核融合炉を含む次世代炉について)

参加学生も4Gr構成で、各Grは共通テーマと上記4テーマのうち2つのテーマを選択し対話を行った。

対話終了後、学生各 Gr が共通テーマおよび選択 2 テーマにつき纏めの発表を行った。今回も質の高い対話ができ、シニア側にとっても有意義であった。

(9) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (11 回目)

日時 平成 28 年 2 月 5 日 (金) 10:00~17:30 (シニアは 12 時から)

場所 八戸工業大学 メディアセンター大会議室

参加者 八戸工大学生 24 名 (機械情報技術、電気電子システム、システム情報、  
バイオ環境工学・・・各専攻学科の 3 年生)

教職員 5 名、 SNW東北 5 名、 SNW連絡会 5 名

基調講演 坪谷隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「学生諸君と高レベル放射性廃棄物処分を考える！」

今回で11回となる対話会では、企画準備段階から懇親会まで入念な準備調整と  
いつも乍らの温かい気遣いを感じさせてくれた。対話に先立ち、昼食に学生とせん  
べい汁を食しながら互いが打ち解け、その流れをグループ対話に繋ぐことで本音ベ  
ースの活発で深みのある対話が実現している。対話後の学生諸君の発表内容は一連  
の原子力体験学習カリキュラムの蓄積で、エネルギー問題に対する論点整理が出来  
上がっており、それを下敷きにしてポイントを外さないものだった。

(10) 東北学院大学 (7 回目)

日時 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 11:30~16:30

場所 東北学院大学工学部 (多賀城キャンパス) 3 号館 301 教室

参加者 学生：電気情報工学科 3 年生 (佐藤・石川研究室) 18 名

教授：石川和己教授

SNW東北 6 名

基調講演 1 岸 昭正副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線の基礎」

昨年度は大学の都合で実施出来なかったため 2 年ぶりの対話会だが今回で 7 回目  
となる。石川先生の好意により、研究室の学生を対象に例年どおりの対話を実施  
することが出来た。基調講演のあと 6 名ずつ 3 グループに分かれた学生とシニア  
が対話した。今回はテーマを事前には設定せず、基調講演の内容を踏まえ自由に  
対話を展開した。当初予定は 50 分であったが、足りないため 15 分延長しての対  
話となった。また対話後各グループ纏めの発表を行った。

### (11) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成27年度は東北電力（株）の宮城支店電友会および青森アスパム・エネルギー館で主に女性を対象に講演と対話を行った。

#### ・東北電力（株）宮城支店電友会

日時 平成27年8月20日（木）10:30～12:00

場所 東北電力（株）宮城支店 5F会議室（SS30ビル）

参加者 電友会20名、SNW東北 7名

基調講演 SNW東北 矢野歳和副代表幹事

演題 「低放射線被ばくの影響と原子力」

30分の基調講演のあと、45分ほど3グループに分かれて対話した。

#### ・青森アスパム・エネルギー館でのセミナー

日時 平成28年2月25日（木）

場所 青森アスパム・エネルギー館

参加者 青森市民（主に主婦層）、SNW東北 3名

基調講演 矢野歳和副代表幹事 「放射線の基礎」

今回が初回で今後定期的実施予定のセミナーで、主催は青森アスパム・エネルギー館

### 3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を実施した。

#### (1) 第19回会員勉強会（第7回定期総会での記念講演）

日時 平成27年6月4日（木）16:00～17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 25名

講師 SNW連絡会副会長 坪谷隆夫様

演題 「放射性高レベル廃棄物最終処分の動向と技術開発の動向」

原子力発電の推進に反対する側の大きな理由の一つになっている高レベル廃棄物の最終処分に長年取り組んで来られた坪谷様から、この問題の動向について詳しい説明があり、質疑応答があった。

### 4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日（必要に応じて臨時）



- (1) 第61回 平成27年4月20日
- (2) 第62回 平成27年5月12日
- (3) 第63回 平成27年6月22日
- (4) 第64回 平成27年7月21日
- (5) 第65回 平成27年9月24日
- (6) 第66回 平成27年10月26日
- (7) 第67回 平成27年11月16日
- (8) 第68回 平成27年12月21日
- (9) 第69回 平成28年1月25日
- (10) 第70回 平成28年2月22日
- (11) 第71回 平成28年3月23日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」参加  
原則毎月第3木曜日（8月は休会）

（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室

情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成27年度参加シンポジウム、講師派遣、見学会など

(1) 参加シンポジウムなど

・「原子力国民会議第3回東京中央集会」テーマ：原子力の誤解を考える

日時 平成27年9月29日（火）

主催 一般社団法人原子力国民会議、エネルギーと経済・環境を考える会

共催 KAKKIN、日本電機工業会

後援 日本原子力学会、他

場所 メルパルクホール（東京都港区芝公園）

参加者 第1部：約350名、第2部：約700名（SNW東北 矢野）

第1部は「女性の目線で考える原子力」、第2部は「原子力の現状と期待」と題して開催された。

・第16回SNWシンポジウム テーマ「エネルギー安全保障は原子力が柱」

主催：（社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時：平成27年10月3日（土）13：00～17：30

場所：東京工業大学デジタル多目的ホール

出席者：約150名 SNW東北から 山田 矢野

山名元氏（京大名誉教授）と川口マローン恵美氏（作家）が基調講演  
その後5人によるパネル討論で原子力の必要性を論じた。

・第9回東北原子力シンポジウム

日時 平成27年10月7日（水）10:30～17:15

場所 六ヶ所村文化交流プラザ・スロニー

参加者 約80名 SNW東北から 岸

主催 原子力学会東北支部 共催 六ヶ所村

主催者の日本原子力学会東北支部長の石井教授、ゲストで日本原子力学会会長の  
上塚寛氏、六ヶ所村議会の佐藤議長をはじめ約80名が参加していた。本シンポ  
ジウムには東北大学工学部の量子エネルギー工学専攻科の教授陣および学生が大  
勢参加した。なお、学会支部が仙台から青森まで往復の貸切バスを提供した。

・「エネルギー講演会」

日時：平成27年7月24日（金）13:00～16:00、

主催：東北エネルギー懇談会

場所：ウェスティンホテル仙台

講演1．東日本大震災に耐えた原子力発電所と放射線について考える、

講演者 科学ジャーナリスト東嶋和子

講演2．今後のエネルギー政策の課題

講演者 日本エネルギー経済研究所理事長 豊田正和

・「エネルギー講演会」

日時：平成27年10月27日（火）

主催：東北エネルギー懇談会

場所：ウェスティンホテル仙台

演題：粒子線治療の現状と将来

講師：山形大学教授 根本健二

・東北大学流体科学研究所 第2回公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所

日時 平成27年11月7日（土）13:00～16:10

場所 東北大学片平キャンパス「サクラホール」

講演1 「原子力規制の現状と今後の見通し」

講師／NPO法人パブリック・アウトリーチ上席研究員 諸葛 宗男氏

講演2 「福島第一原子力発電所事故によって汚染された土壌の減容化」

講師／東北大学大学院工学研究科教授 石井 慶造 氏  
参加者 SNW東北から 10 名参加。3 名は受付を担当し協力。

・「いま改めて考えよう地層処分」 仙台シンポジウム

日時 平成 28 年 1 月 31 日（日）13:00～16:30

場所 TKP 仙台西ビジネスセンター 2F

主催：資源エネルギー庁

実施主体：NPO 法人 水・環境ネット東北

「高レベル放射性廃棄物の最終処分について」

資源エネルギー庁 池田真人

・HLWの最終処分に向けた「取組の経緯」及び「新たな取組」

・国が前面に立つ／国民・地域との丁寧な対話

「放射性廃棄物地層処分の基礎知識」

東北大学 多元物質科学研究所 准教授 桐島 陽

参加者 SNW東北 山田副代表幹事、阿部幹事

・「原燃サイクル立地地域と消費者との対話」 仙台シンポジウム

主催 資源エネルギー庁

日時 平成 28 年 3 月 7 日（月）13:00～17:00

場所 フォレスト仙台 2F ホール

参加者 約 100 名 SNW東北 岸副代表幹事

若い人の参加も多く、活発な議論があった。

・原子力学会春の大会 企画セッション：シニアネットワーク・セッション（一般公開）

日時 平成 28 年 3 月 28(月)

場所 東北大学川内キャンパス 会場：講義棟 C 棟 C201 号室

参加者 45 名 SNW東北から矢野副代表幹事他 15 名

本企画セッションはSNW東北の矢野副代表幹事が主となって企画し、発表も行った。

また阿部勝憲幹事は司会を務めた。議論は活発で討論は成功だった。

(2) 講師派遣

・日本原燃主催「原燃ECOスクール」への講師派遣

① 5月19日（火） 八戸市 工藤代表幹事代行

② 5月20日（水） 青森市 矢野副代表幹事

- ③ 5月21日(木) 青森市 矢野副代表幹事
- ④ 5月26日(火) 弘前市 山田副代表幹事
- ⑤ 11月24日(火) 八戸市 山田副代表幹事
- ⑥ 11月25日(水) 青森市 矢野副代表幹事
- ⑦ 11月26日(木) 青森市 矢野副代表幹事
- ⑧ 11月27日(金) 弘前市 工藤代表幹事代行

### (3) 見学会について

- ・東北電力中央給電指令所見学会

日時 平成27年10月7日(水)

参加者 SNW東北会員 12名

対話活動に資するため見学会を行った。見学と共に震災直後およびその後の原子力がすべて停止している中での電力需給状況の説明を受けるとともに、太陽光の影響などについて活発な意見交換を行った。

- ・大間原子力発電所建設現場・東通原子力発電所見学会

日時 平成27年10月8日(水)

参加者 岸副代表幹事

前日の第9回東北原子力シンポジウムの併設見学会で、殆どの参加者は東北大学の学生だった。この見学会では、大間原発の現在の建設中断の状況や、東通原発の新規制基準への対応の現場の状況を知ることが出来た。

## 7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 27 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/17 (水)	*長岡技術科学大学	45 名	SNW 東北 5 名 (馬場、工藤、岸、 矢野、山田) SNW (東京) 6 名	5 回目
11/11(水)	青森大学	20 名	SNW 東北 6 名 (清野、工藤、宮本、 山田、岸、矢野)	6 回目
12/7(月)	*山形大学工学部	37 名	SNW 東北 7 名 (阿部、山田、岸、 矢野、涌沢、栗野、高橋) SNW (東京) 6 名	2 回目
12/10(木)	仙台高専	3 名	SNW 東北 4 名 (工藤、矢野、水原、 高橋)	6 回目
12/12(土)	福島高専	10 名	SNW 東北 3 名 (阿部、岸、栗野) SNW (東京) 5 名	初回
12/15(火)	宮城学院女子大学	8 名	SNW 東北 4 名 (工藤、矢野、水原、 岸)	5 回目
1/22(金)	*東北大学	28 名	SNW 東北 5 名 (工藤、岸、矢野、 阿部、栗野) SNW(東京)5 名	10 回目
2/5(金)	*八戸工業大学	24 名	SNW 東北 5 名 (工藤、阿部、岸、 高橋、山田) SNW(東京)5 名	11 回目
2/16 (火)	東北学院大学	18 名	SNW 東北 6 名 (工藤、早坂、岸、 高橋、松野、栗野)	7 回目

\*は SNW 連絡会と共催

参加学生 191 名 SNW 東北会員延べ 44 名

なお、日本原子力学会の SNW 連絡会による平成 27 年度の対話活動は、長岡技術科学大、京都女子大、九州工大、九州工業大、福井大・福井工大、山形大、広島商船高専、福島高専、有明高専、東北大、八戸工大、福岡教育大と 11 回実施されたが、SNW 東北としてはこのうち長岡技術科学大、山形大、東北大、福島高専、八戸工大の 5 校での対話に参加した。

以上